



寺井公子 教授

専門:財政学、公共経済学

(インタビュアー:池田・迫本)

『理論モデルを使って問題解決を目指す!』

Q. 寺井先生の専門とされている研究内容はなんですか？

最近関心を持っているのは、日本の財政再建の問題ですね。実は当初はミクロモデルを使って投票行動とかをモデル化したり、政治経済学とか公共経済学の分野でもどちらかというと理論モデルを細かく操作したり、というようなことを専門にしていたのですが、何人かの先生がたから声をかけていただいてコラボレーションしてから、もうすこし日本の問題について取り組んでみたいと思うようになったんです。日本じゃなくてもあてはまるような普遍性は維持しつつ、ここ2、3年は、日本の抱える問題を説明できる理論モデルを作ることに取り組んでいますね。財政再建問題についても、日本の財政制度をモデルに反映させて、どのような部分が日本のどんどん積み上がる債務残高に影響しているのかを明らかにするというのが今の課題ですかね。財政再建問題に対してのアプローチはいろいろありますが、私は自身が大学院で学んだ内容を主な軸にして、日本の抱える課題を解決したいと考えています。

ただ、ゼミ生には理論モデルを自ら構築して動かしていくという私と同じような方法押し付けるようなことはしていません。ただ、本音を言えば私が言わなくてもゼミ生の中から理論モデルを使って卒論や修士論文を書きたいと言ってくれる学生がいつかは育ってくれるといいなという熱い思いはあります！

『自身の見解を押し付けすぎず、出さなすぎず』

Q. 寺井先生の教育理念を教えてください

前任校では、経営学部で教えていたこともあり、授業で数学を出すのに私自身躊躇がありました。慶應の学生は日吉でのマクロやミクロの学習があっつか、数学への耐性があるのですね。それがわかってからは授業も数学を取り入れるような内容にしてもいいのだと思うようになりました。あと、例えば消費増税

についてどういう考えを持っているかなどを授業で言っていいのかといったためらいもありました。学生は純粋なので、私はこう思うという風に言うと、それが唯一無二の答えだと思わないか、と不安でした。そのように授業で自分の考えを言わないのがフラストレーションでもありましたね。ただ、あるとき消費税増税について自分がどう思うかを話した際に学生の目が変わったことがあったので、自分の意見を押し付けるのはよくないけど、ある程度は言ってもいいのかなと思うようになってきましたね。理論モデルについても出し方次第でうまく伝えられるのかなと思うようになりました。

『学生時代は真面目な学生でした！』

Q. 寺井先生の学生時代のお話を聞かせてください

私は最初徳島大学の教育学部だったのですよ。学生時代はすごく真面目でしたよ。授業も一番前で聞いていて、それでもまだまだ勉強したいという意欲からいろいろな本を読みましたね。哲学書などありとあらゆる本を読みました。考えだすと止まらなかったのです。それから、両親の病気をきっかけに、お医者さんや看護師の方の手厚い世話を肌で感じて、日本の社会保障制度を支えるこのお金はどこからでてくるのだろう、とふと思ったのですね。社会の仕組みについて自分は全然知らないのだなと思いましたね。いろいろ人間について考えているけど、その人間が営む社会の仕組みについて何も知らないなと感じました。それがきっかけで、東大の経済学部で30歳で学士入学をしました。そんな私を回りは平等に扱ってくれて、本当に環境に恵まれていましたね。

『理論にも実体経済にも興味がある学生』

Q 寺井ゼミを志望する2年生に求めるものは何ですか？

公共政策の授業で試験をすると、計算問題は解けるのだけど論述はちょっと・・・という学生が意外と多くて、ゼミ生にはどっちもできてほしいと思いますね。日吉で学んだマクロもミクロも統計もしっかりとできていて欲しいなと思います。教授説明会でも言いましたが、やはり成績についても、日吉の成績がある程度いい、というのはいいいことかなと思います。ただ、現実の問題に興味が無いというのもまたちょっと・・・というのもありますね。ゼミでも経済財政白書を読んだり、現実の問題を扱うので、理論も実際の問題にもどちらにも興味の持てる学生がいいですね。

『学ぶ姿勢をしっかりとって過ごしてほしい』

☆最後に2年生へのメッセージをお願いします☆

これ難しいですね、マー君もこないだ勝ったとき、みんなに一言って聞かれて、こういうの難しい、って言っていましたし（笑）。でもやっぱり学ぶ姿勢というのかな、こんなことやってなんのためになるの？というのではなくて、今すぐ、直接には役に立たなくても、世の中の仕組みとかもっと大きな事を理解するために必要な基本的なことについて、めんどくさがらないで学べる学生が来てくれるとうれしいですね。あとは、ガッツがある学生、あきらめない学生が一番ですよ。なにをやっても、あたえられた仕事で手一杯ではなくて、与えられた仕事の流れが見えて、人の流れが見えて、難しい課題にも自分で道を切り開くつもりで、取り組んでいくことが大事だと思います。そんな子が来てくれたら、本当にうれしいですね！